

【書類名】 特許願
【整理番号】 20240802-1
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B60J 5/06
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県川崎市宮前区けやき平1番33-503
【氏名】 廣田 祐次
【特許出願人】
【識別番号】 715008687
【氏名又は名称】 廣田 祐次
【手数料の表示】
【納付番号】
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 3
【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書
【発明の名称】 マイアバターが運転する自動運転システム
【技術分野】

【0001】

本発明は、低速自動運転とマニュアル操作（人が運転するという意味）の切り替え可能な車システムにおいて、「マイアバター」が、低速の自動運転をし、またマニュアル運転時（人が法定速度で運転する）は、「マイアバター」が車載カメラからの情報で、景色を共有し、またリアルタイムの交通情報を加味し、細かいナビゲートを口頭で行う車システムに関する技術の提案である。

【背景技術】

【0002】

法定速度の自動運転車は、車の市場故障率を0にできない以上成立せず、事故・故障前提（＝事故や故障があってもケガをしない、人は避けることができる）の低速自動運転車が求められているが、それだけだと、車の良さ（早く移動する）が発揮できない。

郊外に家を購入し、歩くのは大変だし、バスは混雑するので、通勤では、車で駅まで往復したいが、駅周辺の駐車場は高額で、すぐに満車になって使えないという課題がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【特許文献1】 特許7344613

【発明の該要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

低速自動運転とマニュアル運転とを適宜切り替えられるようにし、低速自動運転では、マイアバターが自動運転をし、マニュアル運転（法定速度）では、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、きめの細かいナビゲーションを口頭で行えるようにする。

あたかも周辺エリアを熟知したベテランタクシードライバーが助手席に座り、「この時間帯は混雑するので、その信号を右折して、次の信号で左折して下さい」等の細かな口頭指示を与えることができるようにする。

人が通勤で、車で駅までマニュアル運転し、駅周辺あるいは会社等の近くの駐車場や乗降場等で、人が下りると、該駐車場や乗降場からは、該マイアバターが低速自動運転で、自宅あるいは所定の駐車場まで、移動するようにし、又帰宅時には、該人と該マイアバターとが連絡をとりあい、時間を合わせて、該駐車場や乗降場にて、該人が乗車し、マニュアル運転で帰宅するか、お酒を飲んだり、疲れて眠いときには、該マイアバターが低速自動運転で運転し、帰宅することができる。

【課題を解決するための手段】

【0005】

低速自動運転とマニュアル運転（人が運転）が切り替え可能な車両にて、右ハンドルの場合は、ハンドル左側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、左ハンドルの場合、ハンドル右側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、マイアバターが映し出されるようにする。また、マイアバター専用のPCを該車両に搭載し、該車両の駆動電源からの充電を可能とした該PC専用電源を搭載する。

低速自動運転では、該マイアバターが自動運転をし、マニュアル運転（法定速度）では、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、またリアルタイムの交通情報を加味し、きめの細かいナビゲーションを口頭で行えるようにする。

また、該マイアバターとの一般的な会話を楽しむことができ、かつ人が遠隔にいても、電話やメールで該マイアバターと会話ができるようにし、さらに該車両の外部にも複数のマイクとスピーカー及びカメラとを設定し、該車両の周辺にいる人と該マイアバターとが会話ができるようにする。

【発明の効果】

【0006】

本発明により、通勤で自家用車を利用し、駅周辺の駐車場で該自家用車を乗り捨てても、低速自動運転で、自宅又は所定の駐車場に移動してくれるので、駐車場を気にせず、気軽に自家用車を使えるようになる。

昼の時間帯では、高齢者や障害者の買い物や病院等の用事で、該自家用車を安全な低速の移動手段として流用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】マイアバターシステムの概要を示す。

【図2】マイアバターが車内に存在している状況を示す。

【図3】マイアバターが運転する自動運転システムの運用例を示す。

【発明を実施するための形態】

【0008】

低速自動運転とマニュアル運転（人が運転）が切り替え可能な車両にて、右ハンドルの場合は、ハンドル左側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、左ハンドルの場合、ハンドル右側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、マイアバターが映し出されるようにする。また、マイアバター専用のPCを該車両に搭載し、該車両の駆動電源からの充電を可能とした該PC専用電源を搭載する。

低速自動運転では、該マイアバターが自動運転をし、マニュアル運転（法定速度）では、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、またリアルタイムの交通情報を加味し、きめの細かいナビゲーションを車載スピーカーを使い、口頭で行えるようにする。

また、該マイアバターとの一般的な会話を楽しむことができ、かつ人が遠隔にいても、電話やメールで該マイアバターと会話ができるようにし、さらに該車両の外部にも複数のマイクとスピーカー及びカメラとを設定し、該車両の周辺にいる人と該マイアバターとが会話ができるようにする。

【0009】

図1は、マイアバターシステムの概要を示している、マイアバターとは、デジタル空間（PC画面上）での、個人の好みの容姿、声、性格等を備えたアバター（仮想人間）のことであり、マイアバターシステムは最大の教育改革であ

り、最大の業務改革であり、最大の生活改革であることを示している。

図2は、マイアバターが低速自動運転又は人が運転するモードでは、口頭でナビゲートをしているイメージ図である。

低速自動運転とマニュアル運転（人が運転）が切り替え可能な車両にて、右ハンドルの場合は、ハンドル左側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、左ハンドルの場合、ハンドル右側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、マイアバターが映し出されるようにする。また、マイアバター専用のPCを該車両に搭載し、該車両の駆動電源からの充電を可能とした該PC専用電源を搭載する。

低速自動運転では、該マイアバターが自動運転をし、マニュアル運転（法定速度）では、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、またリアルタイムの交通情報を加味し、きめの細かいナビゲーションを車載スピーカーを使い口頭で行えるようにする。

また、該人は車載のマイクとスピーカーによって、該マイアバターとの一般的な会話を楽しむことができ、かつ人が遠隔にいても、電話やメールで該マイアバターと会話ができるようにし、さらに複数のマイクとスピーカー及びカメラとを設定し、該車両の周辺にいる人と該マイアバターとが会話ができるようにする。

図3は、マイアバターが運転する自動運転システムでの、低速自動運転車優先道路を設定したり、乗降車場を設定したり、本システムの運用のイメージ図である。

高齢者や障害者の足として運用する場合、AI管制センターでは、個人宅のマイアバターからの移動予定（行動予定時間割）を受理し、対応OKかどうか、該個人宅の近くのA&M車のマイアバターに確認し、OKであれば指令をだす。（AI管制センターのAIが全アレンジをし、最終的には人がGOの指示をだす。）

荷物を届けるときは、基本的にライトバンタイプの低速自動運転車を使う、マイアバターが自動運転をし、無駄のない配達経路で走行し、配達要員のアルバイターが乗車し、マイアバターの指示で、該アルバイターが各家庭の玄関まで、荷物を届ける。

【産業上の利用可能性】

【0010】

本発明により、通勤で自家用車を利用し、駅周辺の駐車場で該自家用車を乗

り捨てても、低速自動運転で、自宅又は所定の駐車場に移動してくれるので、駐車場を気にせず、気軽に自家用車を使えるようになる。

昼の時間帯では、高齢者や障害者の買い物や病院等の用事で、該自家用車を安全な低速の移動手段として流用することができる。

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項1】

低速自動運転と人が法定速度で運転するモードとが切り替え可能な車両にて、右ハンドルの場合は、ハンドル左側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、左ハンドルの場合、ハンドル右側のフロント部の下側に大画面モニターを設置し、マイアバターが映し出されるようにしたマイアバターが運転する自動運転システムであって、該マイアバター専用のPCを該車両に搭載し、該車両の駆動電源からの充電を可能とした該PC専用電源を搭載した、マイアバターが運転する自動運転システムであって、低速自動運転では、該マイアバターが自動運転をし、人が運転するモードでは、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、またリアルタイムの交通情報を加味し、きめの細かいナビゲーションを車載スピーカーを使い、口頭で行えるようにするマイアバターが運転する自動運転システムであって、また、該人は車載のマイクとスピーカーによって該マイアバターとの一般的な会話を楽しむことができ、かつ人が遠隔にいても、電話やメールで該マイアバターと該人とが会話ができるようにし、さらに該車両の外部にも複数のマイクとスピーカー及びカメラとを設定し、該車両の周辺にいる人と該マイアバターとが会話ができるようにする、マイアバターが運転する自動運転システム。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

法定速度の自動運転車は、車の市場故障率を0にできない以上成立せず、事故・故障前提（＝事故や故障があってもケガをしない、人は避けることができる）の低速自動運転車が求められているが、それだけだと、車の良さ（早く移動する）が発揮できない。

【解決手段】

低速自動運転とマニュアル運転とを適宜切り替えられるようにし、低速自動運転では、マイアバターが自動運転をし、マニュアル運転（法定速度）では、該マイアバターが車窓から見える景色を車載カメラで共有し、きめの細かいナビゲーションを口頭で行えるようにする。

【選択図】 図1

【書類名】 図面

【図1】

マイアバター PC画面上の自分だけの母親・恋人・秘書・部下・召使

マイアバターとは、自分の好きなキャラをPC(大)画面上に設定し、友人(又は恋人)として、よき話し相手となり、口頭の伝達で、各種の事務処理や連絡をしてくれ、又、「興味のある内容」をどんどん掘り下げ、映像化して教えてくれる。⇒誰でもが、学者(医者)や弁護士になれる。



最大の教育改革 学校では手書き教育

マイアバター先生により、大学教授並みの実力がつくので、受験や塾での勉強から解放される。(親は黙って見守るだけでよい。) 多少障害があっても、(怒ることなく)何度でも丁寧に教えてくれる。

(男性用)マイアバター例
 一対一では飽きるので、3人を標準とする(声・性格・笑い方が異なる)「脱げ」という命令だけは従わない。

最大の業務改革 24時間対応(仮結論)

口頭で数字を読み上げるだけで、表計算やグラフ化、そしてプレゼン資料も作ってくれる。24時間365日対応し、業務アバターによる仮回答(仮結論)をする。(後日、人による正式回答)

最大の生活改善 自殺者〇 孤独死〇

自分を、攻撃や批判を全くしなしない、**無償の愛の話し相手**(友人や恋人として)ができ、また客観的な的確なアドバイスをしてくれる。
 幼児や高齢者・障害者で、一般的な人との会話での意思疎通が難しくても、**カメラからのその人の表情や姿勢、過去の会話履歴等から、的確に状況を把握し、家族や病院等にメールや電話で伝達してくれる。** **パーソナル設定により、AIからメールや電話が届く時代**



(女性用)マイアバター例
 まじめ、チャラ男、スポーツマンの3種のキャラが標準だが、自分でも、声やキャラを設定できる。(オフィス用では、1アバターのみ)

図 2

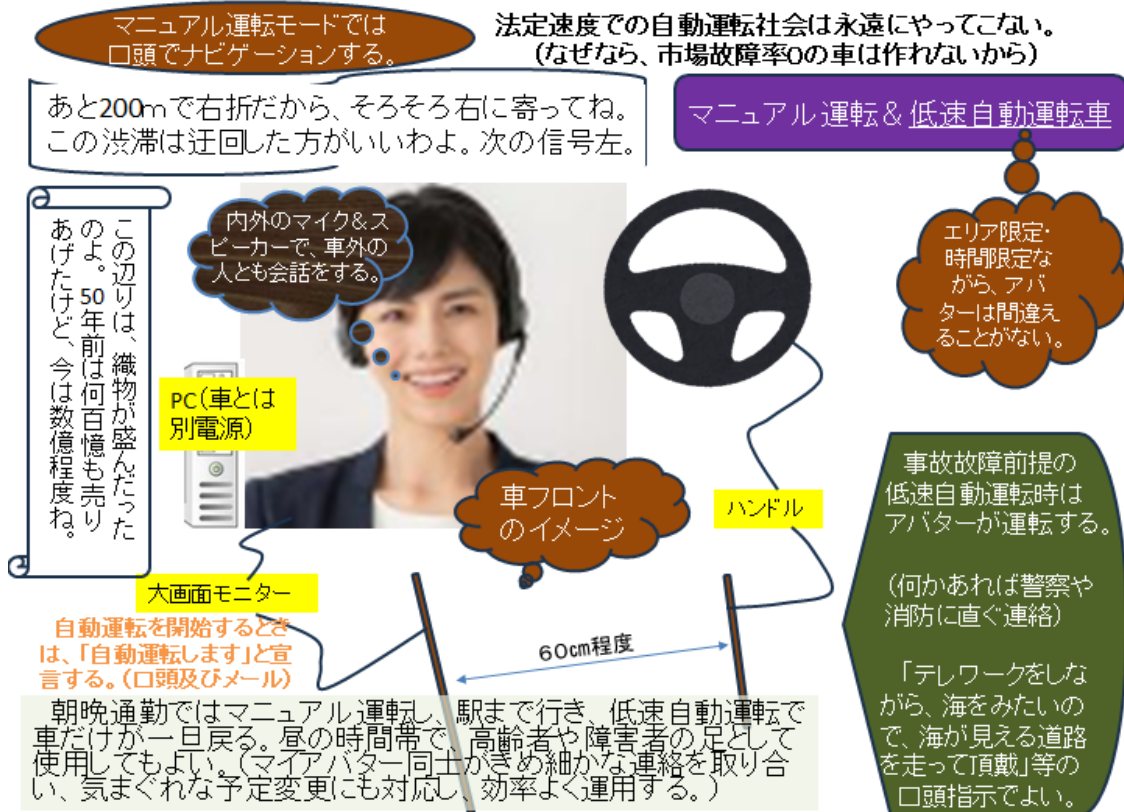


図 3

ハイブリッド車(A&M車と呼称)の時代
(低速自動運転と人が運転するモードの切替式)

ANNEX-2

マイアバターが運転又はナビゲートする

生活道路の片側を低速自動運転の優先道路に設定し、所々の比較的交通量の少ない道路を乗降車場&駐車場に設定する。

荷物の配送

基本的に ライトバンタイプの低速自動運転車を使う、マイアバターが運転し無駄のない配達経路で走行し、配達要員のアルバイターが乗車し、マイアバターの指示で荷物を届ける。

法定速度道路

乗降車場(送迎場)

街のところどころに、交通量の少ないエリアを乗降場に設定する。

法定速度道路

低速自動運転車優先道路

空いていれば、又は邪魔をしなれば、一般車(モード)も走行可

高齢者や障害者の足にも使う

個人宅のマイアバターからの移動予定を受理し、対応OKかどうかA&M車のマイアバターに確認し、指令をだす。(AIが全アレンジをし、人がGOの指示をだす。)

AI管制センター

